

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400111		
法人名	ウエルエアージング株式会社		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	佐野市町谷町59-1		
自己評価作成日	平成25年 1月23日	評価結果市町村受理日	平成25年4月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年2月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平均介護度が比較的重く、御自身の思いを伝えることができない方もおり、行動や表情などを観察しながら入居者様の思いに応えられるよう、「寄り添う心」「思いやる心」を大切に、ゆったりと安心して過ごせるような環境作りを目指しています。行事、外出等を取り入れて気分転換し、メリハリのある生活が送れるようにケアの工夫も行ってあります。併設の小規模利用者様や同法人の他施設との交流の場を提供、楽しみにつないでいます。4施設合同での広報誌もできました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は佐野市東部みかも山麓の旧国道50号線沿いとJR線・住宅地に囲まれ閑静なところに位置している。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とはドア一枚で行き来出来る事から、気楽に交流がされている。今年度より独自の理念として4つの心「敬う心・思い合う心・寄り添う心・もてなしの心」を掲げ、職員は確認の声かけに努めている。地域の方に消防訓練を回覧でお知らせするほか火災通報緊急連絡網に近所の方の登録を頂き避難誘導の協力を得ている。運営推進会議後職員を含め家族との交流が行われたり、職員は利用者へ寄り添いながら意見や提案も出しやすく、笑顔を絶やさないと大切にしている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関・事務所に掲示。朝の申し送りでも個々を尊重したケアを行うよう職員に伝達している。	法人共通の基本理念である「個人個人を尊重したケアとオーダーメイドの介護」を施設内に掲示している。事業所独自の理念として今年度のモットーを「4つの心」として掲示し、ケアの共有と実践に繋いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	納涼祭や消防訓練などで協力交流を持っている 町内の自治会に加入、新年会には地域の方がと一緒に交流を図っている。	自治会に加入し回覧板で消防訓練を知らせたり、新年会に参加したりしている。小規模多機能型居宅介護事業所と合同の納涼祭は縁日風に設け、近所の家族や孫などが参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の中で、認知症について説明をさせて頂き理解を深めて頂く努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	頂いた意見は検討し、可能な限り取り組んでいる。	会議は小規模多機能と合同で2ヶ月に1回利用者代表・家族代表・自治会長民生委員・地域包括支援センターの参加により開催している。活動報告や参加者からの意見があり、自治会長からは地域の情報をもらうなど、それらを参考に取り組んでいる。運営推進会議録として玄関に掲示してある。	運営推進会議録が玄関に掲示されているが、利用者家族が目にも留めるような機会を設け、また、声かけの工夫など行い会議出席へのきっかけにもなることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や問題点等を電話連絡にて担当者にその都度相談し、協力頂いている。	市の担当者には事業所内の問題等の相談をしている。また、更新の手続きにおいても具体的なことを聞くなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方向で取り組んでいる。 玄関の施錠に関しては、施設の立地上、県道が目の前を走っており、車の往来も激しく、交通事故予防として安全の観点からである。	職員は利用者の気持ちや習慣をくみ取り、本人がどのようにしたいか等相手の立場になり、身体拘束しないケアに取り組んでいる。交通量の多い県道沿いに立地しており安全性を考え、玄関は外からは自由に入れるが、内からは施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や一方的な介護も虐待につながる危険性があることを、職員には随時指導している。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設を利用している入居者様を通し、制度について職員には説明はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の時は御家族に分かるよう説明、疑問点には答え、理解したうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際や電話連絡をした際に要望を聞くよう心がけている。内容によっては、職員に伝達し、ケアに生かしている。	面会時や電話での連絡時に意見要望を聞いている。また、常に家族との連絡は欠かさないようにしている。運営推進会議終了後、職員と家族との交流会があり、そこでの意見を反映し、支援に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各セクションでのミーティングや主任会議等を開き、職員の意見や提案を聴き、業務に反映している。特に、行事等の企画は職員を中心に行っている。	各係ごとや主任会議または、通常のケアの中で、職員は意見や行事・企画を提案している。職員の提案で記録の方式を見直したり行事表の一覧を提示したり意見の反映をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の不具合や勤務状況の把握、偏らない勤務体制を考慮しながら職場条件、整備にそなえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修後、報告を兼ね朝の申し送りのときに伝達研修を行い、情報の共有とケアに役立てている。介護技術については、随時直接指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の施設長会議や栄養会議等に参加し、情報交換ケアの向上につながる様な意見交換等を行い取り組んでいる。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談・入居希望のあった際は、御本人・御家族と面会し、困っている事や自宅での生活の様子などを考慮しながら、安心して生活送れるよう共に話し合い進めて行く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前の相談・面接時には、施設見学をして頂き、御家族が困っている事、不安に思っている事、望む事を伺い、安心して利用していただけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、困っている事に対して、いろいろなサービス内容の説明や利用方法などもお話ししながら、御本人・御家族が安心して利用できるよう働きかけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が掃除機をかけると入居者様はモップ拭きを、食事の後片付けも一緒に行い、洗濯物をたたむなどできることを共に行うよう働きかけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の想いや様子などを面会に来た折に話し、御家族との関わりを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や知人の方が面会の折は居室に案内し、ゆっくり話しが出来るよう配慮している。以前からの罹りつけの主治医や理美容院など、なじみの関係が途切れないよう努めている。	家族や知人の訪問には居室に案内している。月に1回馴染みの理美容院が来てくれたり、希望により行きつけの美容院への付き添いやかかりつけ医への付き添いを行うなど、馴染みの継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、殆どの入居者様はリビングで過ごしている事が多く、会話が弾むような状況ではないが、お互いが笑顔で過ごしている。時には職員が入り会話をきっかけづくりをしながら、入居者様同士が支えあえるような支援に努めている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、御家族から電話があったり相談を受ける事もあり、つながりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	誕生会の企画を個別で対応しようとの事で、行きたい所・食べたい物などを聞き、職員と一緒に外食や食事をして来るなど、個々の希望や意向を取り入れるよう工夫している。	今年度より個別に誕生会を行い、希望の多い回転すしに出かけている。外出困難な利用者には思いに沿ったプレゼント等を用意している。また、利用者の希望により個別で新聞購読している方もおり意向に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	使い慣れ親しんだ持ち物や思い出のものなどを居室に置くなど生活歴を感じて頂けるよう、家族に協力依頼や生活習慣を聞き、それが継続できるようサービス利用に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	起床や食事時間は御本人の生活習慣に合わせて対応している。心身状態に関しては、朝・夕のバイタルチェック・状態観察を通し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の支援の中から状況を把握して、申し送りやミーティングを通し、御家族の意向も聞きながら介護計画に反映していくよう努めている。	日々の経過記録や、状況の変化、さらに、本人・家族からの要望と職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。見直しは6ヶ月であるが状況に応じた見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録や申し送りノートなどを活用し、入居者様の現状把握に努め、介護計画の変更の有無なども視野に納めながら対応している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な発熱や状態変化により受診介助の必要性や、帰宅願望が強い入居者様の対応など、個々のニーズに合わせて柔軟に支援できるよう努めている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域にある公園などの社会資源を利用。また、災害時に迅速に避難させていただくような、火災通報システムへの近所の方の登録・支援が位置づけられ、利用者の安全の一端を担っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医院はあるが、御本人・御家族の意向を考慮し、入居後もなじみの医師に診て頂くよう配慮している。受診が必要な際は、御家族と連絡、適切な医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は半数ぐらいの利用者が継続医になっている。通院は職員または家族が付き添い、家族付き添いの利用者には状況を口答で連絡している。中には病院で待ち合わせ説明を行い適切な医療が受けられるよう支援している。	家族・職員の付き添いによる受診は、安全で安心だが、口答では共通の連絡の違いが出てくる可能性があり、記録を残す観点から往復の書式などを工夫して作成されることに期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化があった場合は、看護師に報告。報告を受けた看護師は状態・状況観察・確認を行ない、主治医に報告、受診が速やかに行われるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、面会や御家族との連携を取りながら病状の把握を行い、病院担当者とも連絡を取り合い、退院後の生活がスムーズに流れるよう配慮、御家族・医療機関との連携を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りを希望される御家族も少しずつ増えて行くように思う。同意書を頂いた時だけにとどまらず、状態変化があった時など、随時、看取りに対する御家族の思い、事業所で出来る事を説明・確認しながら支援していきたいと考えている。	看取りの希望があった場合は看取り同意書は主治医から家族に事前に説明し同意書を貰っている。急変時には再度家族に確認し、管理者を通じ職員も納得をしている。職員の心構えや看取り後のケアにも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車への連絡方法や火災報知機の使い方は事務所に貼ってある。利用の仕方は不定期であるが申し送りのときに説明、職員が全員できるよう働きかけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練は実施。その役割も交代で行い、職員が出来るよう働きかけている。火災報知機の使用方も事務所に明記してある。避難誘導係として近所の方3名の名前も火災通報装置に登録されており、訓練の時も協力を頂いている。	消防署指導のもと年2回夜間想定も含め実施している。訓練では災害発見者や避難誘導者も交替で行っており、全職員各機器を使用出来る。通報訓練時には職員の携帯と共に近所の方(3名の登録)にも届き協力が得られている。備蓄は水・缶詰・乾物類が食在庫に保管されている。スプリンクラーは設置済みである。	訓練は職員の役割を交替で実施されているほか、地域の方を含めて実施されているが、通りの激しい立地条件を考慮して、訓練の回数を増やすことに期待したい。

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いやりの心を常に持ち、相手の立場になり、「自分がされて嫌な事は、入居者様に対してもしない」と随時、事あるごとに職員には話している。	一人ひとりを尊重して男性は名字を、女性は名前を「さん」付けて呼んでいる。職員は4つの心「敬う心・思い合う心・寄り添う心・もてなしの心」を掲げ、さりげない言葉かけと排泄の誘導などは他の人には目立たないように対応している。書類は事務室に保管されてある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中でもこれから支援する事を必ず、伝え、意思確認をしてからケアを行うよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様御本人の意思を尊重、御自身のペースで生活できるよう支援するよう努めている。朝・夕の起床、入眠時間や食事時間のとり方などは入居者様中心に行っているが、入浴に関してはまだ、そこまでいっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、パジャマから日常着に着替える時は入居者様に選んでいただくこともあり、おしゃれに関心を持ってくれるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ旬の物や地場野菜を利用し、高齢者に好まれるような献立の工夫をしている。食事の準備まではしていないが、後片付けはお願いしている。おやつは、張り切って手伝ってくれる。	献立は法人と食材を届ける業者の栄養士が交替で作成している。おやつは職員が考えて利用者も一緒に作り楽しみの一つになっている。食事は職員も利用者と一緒に会話をしながら摂っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況の確認、入居者様の摂取能力に合わせた食事形態の工夫。こまめに水分摂取が出来るようなお茶タイムの工夫など好みなども考慮し、お茶・コーヒー・紅茶ドリンクなども用意し、脱水や便秘予防にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、歯磨きは定着した。トイレや外出後は洗面所へ直行するなど、入居者様、職員も当たり前になっている。入れ歯の管理は職員が行っている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿・便意のはっきりしない方でも日中はトイレに行く。職員2人で対応する方もいるが、座って排泄する事で腹圧がかかり、自然排便や残尿感が無くなりすっきりすると思い実施している。	日々の行動状況を把握して定期的に声かけをし無理強いせずにトイレ誘導している。困難な方には職員2人で自然な対応に心がけて、落ち着いた自立排泄が出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心とした献立を考慮。水分摂取を促し、時には冷たいお水や牛乳などを摂っていただくこともある。申し送りの時に個別に排便の有無を報告、何日も便秘が続かないよう対応している。(便秘から落ち着きが無くなり、不穏になる事も考えられるため)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を使用しながらゆっくり入浴できるよう、考慮している。時には入浴拒否が強い方もいるが、その方の心身状況をみながら促している。	週2～3回、午前中の中の入浴としているが、毎日の入浴も出来る。入浴剤を使用したり、入浴困難な方には身体状況に応じ声かけをしたりして支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の殆どがリビングで過ごしている。自己判断で自由に行動できる方は別として、意思表示が出来ない方の場合は、転寝やテーブルに臥せている時などは速やかに横になって頂くよう働きかけをしている。今の時期は湯たんぽを使用。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を一括してファイルに収めてあり、職員は常時、確認できるようになっている。処方の変更になった時は申し送り等で伝達、誤薬予防に努めている。配薬準備は看護師が行い、薬袋には名前、日付、朝・昼・夕・寝る前と明記してある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日の状態や意欲の程度により、掃除・洗濯・食事の後片付け等無理なく出来る事を支援する。レクを通し、楽しみ、気分転換が図れるような一緒に出来る事を見出し、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の体調を見ながら、散歩、ドライブ、時には施設の買出しの手伝いでスーパーに行く事もある。本人の希望を把握、御家族と一緒に出かけられる方もいらっしゃる。	友人が3人ぐらいで尋ねて来られたり、天気の良い日は中庭の散歩や、ドライブをかねて花見に出掛けている。また、体調の良い日には職員と一緒に近くのコンビニや買い物に出かけている。受診をかねて家族と一緒に家に寄ってくる方もいる。	

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒にスーパーやコンビニで買い物、支払いをご本人にさせていただくなど、時々試みている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	左記の対象になる入居者様はいませんが、御家族よりかかってきた電話に出させていただくことはある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関フロアには観葉植物の鉢、入居者様が生けたフラワーアレンジメントなどが所狭しと飾ってある。リビングには四季、行事にあわせた、入居者様・職員合同の作品が飾ってある。	玄関に利用者手作りのミニいけ花や職員の顔写真が掲示され、リビングにも季節に応じた作品が飾られている。また、中庭からの穏やかな日差しがオープンキッチンまで明るく差し込み、片隅には畳のスペースがあり落ち着ける処となり、臭いも無く適切な温度で居心地よい空間作りがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂が兼ねているため、座る場所も決まっていますが、食事以外の時は、他の人のところに座ったり、小規模に遊びに行くなど、思い、思いに過ごせる場所を見つけているようだ。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品々・馴染みのものなどが居室に置かれ、御家族と一緒にお茶を飲み、談笑する空間もある。	エアコン・洗面台は据え付けになっており、畳の要望の方には事業所が用意している。ベッド・布団等は利用者の馴染みの物が持ち込まれ小物ケースやテレビを持ち込んで我が家としての居室作りの支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は殆ど、バリアフリーで、廊下は手すりが設置、転倒予防など安全に配慮している。		